



SEIKEI
INSTITUTE FOR
INTERNATIONAL
STUDIES

SIIS

成蹊学園 国際教育センター

小学校
第10号

NEWS

2014.9

第5回 オーストラリア体験学習

2014.3.22 ~ 3.30 (9日間)

CALOUNDRA
CHRISTIAN COLLEGE
FOUNDATIONS FOR LIFE



第5回オーストラリア体験学習には、5年生（現6年生）の児童22名（男子9名、女子13名）が参加し、クィーンズランド州にあるCaloundra Christian College（カランドラ クリスチャン カレッジ）での一般クラスへの授業参加やホームステイ等を通じて、オーストラリアの文化理解と相互交流を深めてきました。

とある1日を紹介します

朝食 7:00

午前授業

算数や水泳、
美術の授業
に参加。



私のパティは
いつもニコニコで
笑顔がかわいい女
の子でした。色々
なことを話してく
れてとても優し
かったです。



ホスト
ファミリーの
子どもとボード
ゲームをしたり
追いつっこを
したり楽しい
1日でした。

登校 8:20

スクールバスやホ
ストファミリーの
車で登校します。

モーニングティー 10:20 ~ 10:40

ホストマザーが準備してくれたフル
ーツなどのおやつを食べたり、サッ
カーや鬼ごっこをして遊びました。

昼食 12:30 ~ 12:50

ホストマザーが作っ
てくれたお弁当をパティ
やクラスメートと食べ
ます。

午後授業

日本文化の授業に参
加し、コマやけん玉、
習字を紹介。

下校 15:00

夕食 18:00

帰宅後はホスト
ファミリーと交
流。引率教員に
よるホームステ
イ先の訪問。



お昼の前におやつ時間があ
ることにおどろきました。



授業の次の日、
けん玉が大ブームに
なっていてみんな熱心に
練習していたのでうれし
くなりました。

就寝
20:00

国際交流賞

国際教育センターでは国際交流活動を積極的に行った児童を表彰しています。2013年度はオーストラリア体験学習や来日した外国人の方との交流など37点ものバラエティに富んだ作品が受賞となり、12月4日の朝会で表彰されました。(※受賞当時の学年)



受賞作品の紹介

3年 塩澤 奈月さん
大好きな「おさるのジョージ」英語版の朗読に挑戦。英語が公用語でない方々へどのように英語を学んだかをインタビューしたり、国際交流で知り合った方に録音した朗読の成果を評価してもらうなど、朗読を通して英語を学び、様々な国の仲間と通じ合った交流活動の記録。

最初はうまくいきませんでした。インタビューした方々が英語への取り組みやきっかけを知らせて下さり、力が出て頑張れました。発音やイントネーションが少し出来るようになり、お話の中に入ったように感じながら朗読しました。(応募作品より抜粋)

2014年度 国際交流賞

募集期間

9月26日(金)まで
多数の応募を
お待ちしております。



Renewal リードアラウド Dコース

フォニックスで読もう!

2014年度リードアラウドワークショップでは、英語児童書ディレクターの大島英美先生や、小学校英語科の岡崎先生、国際教育センターのドーンソン先生のご指導のもと、英語絵本の音読を楽しんでいます。

今号では新体制となった5・6年生対象のリードアラウドDコースを詳しく紹介します。



先生の紹介

絵本を通して英語に親しむ

成蹊学園 国際教育センター常勤講師 **ドーンソン 静香** 先生
4・5・6年アドバンス / 6年レギュラークラス担当



成蹊小学校の子どもたちの「打てば響く高いモチベーション」と「スポンジのような吸収力」に感動すると同時に、その子どもたちに教える者として大きな責任を感じています。子どもたちが「限られた授業時間内で楽しみながら英語コミュニケーション態度と発達段階に応じたスキルの両面を身につける」ことができるよう、米国大学院時代に学んだ第二言語習得論と英語教授法の理論と方法や長年のティーチング経験からの教訓をいつも頭の片隅に置きながら、日々の授業づくりを心掛けています。

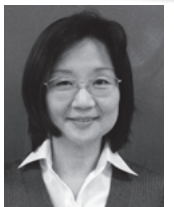
さて、この「リードアラウドDコース」の目標は、フォニックスの技法を使って、英語の本が読めるようになることです。「楽しみながら英語コミュニケーション態度と英語のスキルを身につける」といういつもの授業の基本はそのままに、さらに、「音と文字とのつながりを意識してリテラシー能力を高めること」によって、「個々のレベルに合った本や日本語で慣れ親しんでいる内容の本を英語で読めるようになること」を目指しています。

まずはテキストを講師が読み語りますが、子どもたちは知らないことばが聞こえて来ても目で挿絵を「読み」つつ意味を想像しながら、あるいは、国語の教科書で読んだ内容を思い浮かべながら、興味深く聴いています。講師の読み語りは、少数で文字と言とのつながりを丁寧に確認し、自分で読めるように繰り返し音読指導を受けます。時には、グループ朗読発表なども行います。

このように、先生や友達と一緒に楽しい雰囲気の中、フォニックスで英語の読み方を学び、自分で英語の本が読めるようになる「リードアラウドDコース：フォニックスで読もう!」にみなさんぜひご参加してくださいね! Let's enjoy reading English books!

なぜ『フォニックス』を使うのか?

成蹊小学校 英語科 **岡崎 啓子** 先生
2・3年 5・6年レギュラークラス担当



「フォニックス」との出会いは、今から20数年前、カリフォルニア州にあるプリスクールで自分の子どもが先生から「H」のカードを見せられたら「ハッハッハッ」と息を先生の手へ届くまでかけたりして、アルファベットの一字一文字の名前と同時に音を学習しているのを見た時です。一字ずつの音が確実に発音できるようになると、次にそれらの文字を定めてできている3文字単語 (cat, hat, mat など) の学習、そしてそれらを使った英文の読み (A cat sat on a mat. など) に進んでいくという機能的な方法に感銘を受けました。同時に、自分自身も近くの大学でアメリカの学校で実施されているフォニックスの指導法や Language Arts などの授業で、文字と読みを繋げる指導法、絵本の選定と授業での展開の方法について学ぶことができました。それらのアメリカで実施されている「読み」の指導は、現在の日本における英語指導にも利用できるものだと考えます。

今では、日本でも「フォニックス」という言葉が浸透してきました。成蹊小学校で使用しているテキストブック WE CAN! シリーズには、単元ごとにフォニックス学習のページがあります。リードアラウドDコースでは、「フォニックス」の技法を使って絵本を読んでいます。もちろん、全ての英単語に「フォニックス」の技法が使えとは限らず、例外にもたくさん出会います。例外に出会った時は、その時々で読み方を覚える必要があります。しかし、この時期に自分が知っている「フォニックス」の技法を使って声に出して英語を読んでいるという態度を身に付けておくことは、今後のリーディングの基本としてとても役に立つことだと信じています。

テキスト紹介



「PM Sounds in Words
(© センゲージ ラーニング
株式会社)」

- 1 (短母音)・2 (長母音)
- 3 (その他の母音)
- 4 (語末子音)

Step1

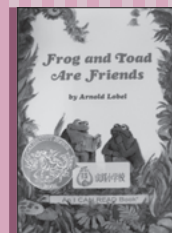
フォニックスにオーカスして音と文字とのつながりを丁寧に学習します。



オックスフォード・リーディング・ツリー (ORT) シリーズ
「フロッピー・フォニックス (Floppy's Phonics) ・シリーズ」ステージ1+~5

Step2

イギリスの小学校で教科書として広く使われているこのシリーズの中から、各自のレベルに合った読みたい本を選びます。ストーリーは主に①のフォニックスで習った語彙で展開されるので、無理なく初めの一冊を読みすすめることができます。



アーノルド・ローベル作
「お手紙 (The Letter)」

Step3

フォニックスで学習したこと「+アルファ」として、国語の教科書で子どもたちが読んだことのある名作2冊に挑戦します。

レオ・レオニ作
「スイミー (Swimmy)」